

## RUBeC 演習 I 参加報告

猪口 真吾

Shingo INOBUCHI

情報メディア学専攻修士課程 1年

### 1. はじめに

私は、2019年8月17日から9月2日までの17日間に渡り、アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレー市に所在する本学北米拠点 Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC) において開講された RUBeC 演習 I に参加した。受講内容としては、ネイティブスピーカによるテクニカルライティングおよびプレゼンテーションの指導を受けた。また、講義に加え、企業訪問として Keysight Technologies Inc. を、大学訪問として University of California, Davis および UC Davis Bohart Museum of Entomology を視察した。ホームステイ先は、RUBeC から Bay Area Rapid Transit で約 30 分の Lafayette であった。

### 2. 授業内容

RUBeC 演習 I の授業は、午前がテクニカルライティング、午後がプレゼンテーションの 2 部で構成されている。また、授業終了後、ネイティブスピーカの Teaching Assistant の手助けを得ながら課題に取り組んだ。

#### 2.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングの授業では、まず基礎文法について学び、その後、自己紹介文や自身の興味があるテーマについてのパラグラフを作成した。最終的には、事前に作成した自身の研究の要旨について文法および表現を修正し、最終日には作成した要旨についてのプレゼンテーションを行った。

#### 2.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では、発音は勿論のこ



図 最終プレゼンテーションの様子

と、プレゼンテーションにおけるジェスチャーやアイコンタクト、スライドの魅せ方を学んだ。これまでは、事前に作成した原稿を時間通りに読み上げることを意識していたが、授業を通して、プレゼンテーションの重要なポイントを明確にし、その部分については聴衆にゆっくりははっきり伝えることの大切さを学んだ。最終日は、自身の研究のプレゼンテーションを行い、評価を受けた。今後の課題として、ジェスチャーとアイコンタクトをより増加させることが挙げられた。

### 3. 企業・大学訪問

RUBeC 演習 I において、1週目の水曜日（2019年8月21日）に企業訪問として Keysight Technologies Inc. を、2週目の水曜日（2019年8月28日）に大学訪問として University of California, Davis (UC Davis) および UC Davis Bohart Museum of Entomology（昆虫学博物館）を視察した。

#### 3.1 Keysight Technologies Inc. (キーサイト)

キーサイトは、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタローザを拠点とする世界最大規模の電子計測器メーカーである。キーサイトの前身は1939年創業のヒューレット・パッカード（HP）であり、2014年に電子計測機器事業を分割し新会社としてキーサイトが設立された。

HP 初の製品はレジスタンス・キャパシタンス・オーディオ発振器 HP200A であり、従来製品と比較して安定性を飛躍的に向上させた。ウォルト・デ

イズニー・スタジオがこの革新的な音響システムに興味を持ち8台を購入した。また、世界初のポケットサイズ関数電卓 HP35 がある。当時のコンピュータは一室使うほど大型のものであったが、この小型化により PC やプリンタが実現した。

Keysight High Frequency Tech Center (HFTC) では半導体の設計を行っており、他では真似できない性能・品質の製品を作り続けている。製造施設は中心から5本、手のように各部門が配置されており非常に効率的な製造が可能となっている。施設内の空気は1分間に5回完全に入れ替わる。製造施設は常時稼働しており、スマートフォンからリアルタイムに状況把握が可能である。テスト施設では、出荷・運搬・使用のすべての状況において過酷なテストを行っている。システムは全世界で統一されており、世界中どこからでもテストが可能となっている。

### 3.2 University of California, Davis (UC Davis)

UC Davis は、カリフォルニア州デービス市に所在するアメリカ合衆国の州立大学であり、University of California system (UC system) に属する10校の1つである。デービス市は人口の半分が UC Davis 学生であることに加え、住民の大半が学位を保有していることから全米で最も教育を受けている街の1つに数えられる学術都市である。

UC Davis は、University of California, Berkeley (UC Berkeley) の分校として1909年に創立した農業学校が始まりであり、現在では農学・環境科学部をはじめ、生物科学部、教養学部、工学部の4学部、102の学士課程および6大学院、90の修士課程

が提供される総合大学である。UC Davis は、アメリカ合衆国における公立大学の名門校を指す Public Ivy の1つであり、世界屈指の農業・生物関連の研究設備を誇る。学生数は3万人以上、メインキャンパスは UC system 内で最大の22 km<sup>2</sup>を誇り、さらに、保護林群 UC Davis Natural Reserve System を保有する。広大な敷地であるため、キャンパス内の一般的な移動手段としては自転車が用いられる。授業としてトラクターの運転を習得するコースもあり、興味深く感じられた。

UC Davis は敷地内に昆虫学博物館も有している。この昆虫学博物館は1946年に設立され、北米で7番目に大きい昆虫コレクションを保有している。また、これらのコレクションは自館でのみ利用するのではなく、世界中の昆虫学博物館と連携し、互いに共有している。館内では、蝶などの標本が納められた引き出しが図書館の書庫のように所狭しと並べられており、興味のある棚を自由に見学できた。印象的な標本として透明な翅に鮮やかな模様を持つ蝶があり、これまでに見たことがない非常に美しい蝶であった。また、標本だけでなく、日本には生息しない大型の昆虫など様々な昆虫を飼育しており、一部は実際に手に取って細部まで視ることができた。

## 4. おわりに

2週間という短い期間であったが、演習を通して語学だけでなく日米の文化の違いを学ぶことができた。最後に、多くの面で支援いただいた先生方、現地スタッフの方々、ホームステイ先の方々、および親族に心より感謝する。